

2023(令和 5)年度

学校関係者評価報告書

学校法人 大阪明星学園
明星高等学校 ・ 中学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見																																										
<p>本校では教職員自己アンケート・保護者アンケート・生徒評価アンケートの3種類を実施し、教職員と保護者と生徒全員にWEB回答を実施しました。その中でも特徴的な項目について以下にまとめます。なお各学年および全体の回収率は</p> <table border="1" data-bbox="111 392 1021 683"> <tr> <td>中学1年生</td> <td>生徒</td> <td>82.7%</td> <td>保護者</td> <td>98.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中学2年生</td> <td>生徒</td> <td>63.1%</td> <td>保護者</td> <td>91.4%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中学3年生</td> <td>生徒</td> <td>64.6%</td> <td>保護者</td> <td>91.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高校1年生</td> <td>生徒</td> <td>61.3%</td> <td>保護者</td> <td>86.8%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高校2年生</td> <td>生徒</td> <td>84.8%</td> <td>保護者</td> <td>89.8%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高校3年生</td> <td>生徒</td> <td>83.8%</td> <td>保護者</td> <td>88.1%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>生徒</td> <td>74.0%</td> <td>保護者</td> <td>90.6%</td> <td>教職員 82.0%</td> </tr> </table> <p>でした。</p> <p>(1)教育理念について</p> <p>(設問1)の「建学の精神の浸透」(設問2)の「学園生活の中で神の愛、命の大切さに向き合う機会を提供しているか」という問いについては、昨年に引き続き保護者は概ね高い評価を得ました。「建学の精神」についての生徒の評価は、すべての質問項目全体の中で昨年度に比べて得点下落が最大でした。特に、低学年層での評価が低かったです。全校朝礼や、始業式、終業式、学年朝礼・昼礼や日々のHR活動、宗教の授業、小鳩会活動などをとおして、色々な立場の先生方から、意識して建学の精神に触れていく機会を多く持っていただけるようにしたいと考えています。保護者の評価は、対面での保護者会が前年度に引き続き実施でき、学校の考えを直接伝える場が確保できていると考えられます。「建学の精神」や「宗教教育」という理念的なものはなかなか浸透しづらいものですが、これからも前述の通り、保護者の方々にも粘り強く伝え続けていきたいと思えます。</p> <p>(2)学習指導について</p> <p>(設問4)の「授業時間数の確保」については、保護者の評価は横ばい、生徒の評価は少し減少しましたが、保護者、生徒とも高い評価を得ています。教員の評価が0.4上昇しかなり高い評価になっています。</p> <p>(設問5)の「知的好奇心への刺激」は全体の中でも低い評価でした。例年この傾向があります。教員の評価は、保護者・生徒の評価よりも高いことから、教員は「知的好奇心への刺激」を意識して授業をしているものと思われそうですが、それが生徒・保護者には上手く伝わっていない状況であると考えられます。しかし、過去3年間で生徒の評価の数値は回復してきています。今後もタブレット、パソコン、プロジェクターやICT教室・多目的ホール・図書館のラーニングコモンズ等を活用し、各教員が個々の授業において一層の工夫をしながら、授業・教科・学年・学校の枠にとらわれず様々な課題の発見や解決に取り組むような活動を促すことにより生徒の知的好奇心を刺激し、評価が改善されるよう取り組みたいと思えます。</p> <p>(設問8)の「公正評価」は、概ね高い評価を得ました。高校の新指導要領の実施に伴い、高2までの評価方法が観点別評価となり大きく変わりました。前年度以上に評価の観点や方法を生徒および保護者に明確に伝えるようにしました。教員の評価が全項目の評価の中で一番高かったことからわかるように、評価の公平性を意識した教員が多かったと思われそうです。</p> <p>(設問15)の「進路指導」は保護者の評価は横ばい、生徒の評価は少し下がりました。卒業生の合格座談会や生徒・保護者対象の大学進学ガイダンスや大学説明会、医学部進学ガイダンスなど前年度に引き続き熱心に生徒、保護者に働きかけができるよう取り組みました。前年度の教員の評価に比べ、今年度は0.4上昇しました。また、(設問16)の「希望進路対応」の教員の評価が今年度は0.5上昇しました。これは、大学の合格実績が前年度より伸びてきているところがこの評価につながっているように思われます。</p> <p>(3)生活指導について</p>	中学1年生	生徒	82.7%	保護者	98.0%		中学2年生	生徒	63.1%	保護者	91.4%		中学3年生	生徒	64.6%	保護者	91.0%		高校1年生	生徒	61.3%	保護者	86.8%		高校2年生	生徒	84.8%	保護者	89.8%		高校3年生	生徒	83.8%	保護者	88.1%		全体	生徒	74.0%	保護者	90.6%	教職員 82.0%	<p>(学校関係者評価委員会)</p> <p>令和6年9月14日(土) 本校法人会議室にて委員4名 本校教職員6名にて開催</p> <p>(1)教育理念について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者は宗教教育をベースにしている明星の良さを理解して入学させているし、保護者会等でその取組を知る機会もある。 ・入学してから明星の良さを感じるのではなからうか。在学期間で熟成され、社会に出た際に、教育理念の素晴らしさを感じる事が出来るのだと思う。 ・低学年層に対しては、「建学の精神の浸透」のために積極的に聖堂を利用し、荘厳な雰囲気の中で命の大切さを学んで欲しい。 <p>(2)学習指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人に合わせたアドバイスがあり、安心して受験に臨むことが出来る。 ・グローバル教育の企画は多く、今後も継続してもらいたい。 ・(設問5)～(設問8)での評価で教員と生徒・保護者の評価の乖離が気になるが、コロナ明け年度との比較でもあり、データの反動が出ているのではないかと。但し、謙虚に数字を精査する必要はある。 ・生徒に考えさせることと、教えることのバランスが大事であるが、生徒に考えさせることに重点を置いた授業をしてもらいたい。 ・2024年度開設のラーニングセンターで自学自習の流れが生じているのは好ましい。 ・「知的好奇心への刺激」については、生徒の希望を行ったり、実社会で活躍しているOBの協力を活用するようにしてもらいたい。 <p>(3)生活指導について</p>
中学1年生	生徒	82.7%	保護者	98.0%																																							
中学2年生	生徒	63.1%	保護者	91.4%																																							
中学3年生	生徒	64.6%	保護者	91.0%																																							
高校1年生	生徒	61.3%	保護者	86.8%																																							
高校2年生	生徒	84.8%	保護者	89.8%																																							
高校3年生	生徒	83.8%	保護者	88.1%																																							
全体	生徒	74.0%	保護者	90.6%	教職員 82.0%																																						

(設問 11)の結果から、本校の生活指導の方針に 8 割弱の保護者が肯定的評価していますが、2 割弱は否定的評価をしています。一方生徒は、肯定的評価が 5. 5 割、否定的評価が 3. 5 割となっています。実際に学校生活を送っている生徒には保護者のような高い評価は得られないのが例年の様子です。しかし、過去 3 年間での比較では徐々に数値は回復してきています。(設問 12)の「規範意識指導」(設問 13)の「生活リズム指導」では、生徒の 7 割前後が肯定的評価をし、否定的評価は、2 割前後でした。社会規範を身に付けることや規則正しい生活を送ることの大切さは理解しているが、本校の生活指導の方針について理解・納得ができない生徒がいるのも現実です。生活指導について学校の考え方を一方的に押しつけるのではなく生徒会とも協力しながら生活指導の方針について生徒がしっかり理解できるよう粘り強く取り組むことが大切であると考えます。

(4)施設設備関係

昨年同様、(設問 25)の「清掃・清潔」、(設問 26)の「施設面の充実」について、8 割から 9 割の保護者は満足し、7 割の生徒が満足しています。特に、保護者の「清掃・清潔」の肯定的評価は全項目の 1 位になっています。明星では、トイレ・廊下等共有部分の清掃は、業者に委託していますので、委託業者のおかげで高評価となっています。生徒には、自分たちが生活する環境を清潔に保ってもらっていることに感謝し、できるだけ汚さない・ゴミを出さないように一層指導していきたいと考えます。

(5)学校行事・クラブ関係・保護者会など

(設問 19)の「クラブ活動」(設問 20)の「学校行事の充実」は保護者の評価はともに上がりました。「クラブ活動」の生徒の評価は少しさがりましたが、コロナ禍が第 5 類に分類され、コロナ前に戻すことができ、満足度が上昇しているように思えます。学園祭もコロナ前に戻り、日曜開催ということもあって、かなり多くの来場者で賑わい充実したものになりました。保護者も参加できる行事が増えたのでこのような結果になったと思われます。

(設問 24)の「保護者会」は、講演会や生徒のプレゼンテーションなど一同に集まるような事も行えるようになりました。昨年と同様に保護者の高い評価を得ています。今後も、より保護者の求めている情報を発信できるようにしていきたいと思えます。

(6)連絡体制・ホームページ

(設問 22)の「家庭伝達」は出来るだけ紙媒体の伝達方法は少なくし、classi の連絡機能やアンケート機能を学年主任や組担任が積極的に使用して、保護者へ情報を発信しており、今年度は少し評価の数値が下がったものの、昨年同様にかなり役立っており、高い評価を得ていると思われまます。(設問 28)の「緊急情報体制」は全体的には高い評価を得ていますが、昨年と比べても今年度は評価の数値は上昇しています。(設問 23)の「ホームページ」は昨年と比べると保護者・生徒の評価は横ばい、教員は少し評価が下がっています。ホームページは、入試広報でもたいへん重要なツールですので、情報運営委員会を中心に創意工夫し充実したものになるようにしていきたいと考えています。来年度はリニューアルする予定です。

(7)保護者・生徒・教員 3 者間の比較

すべての項目においてマイナスの値をとっているものはありませんでした。学校運営に関しては大きな課題や喫緊に改善を要するものは概ねないと思われる。よりよい学校運営に向けた課題をあげるとすれば、「知的的好奇心」「公正評価」があげられます。保護者・生徒・教員の認識差において、教員の評価が高い一方で、保護者や生徒の評価が低くなっています。この場合、教員から見えていない課題(例えば、教員が効果を感じている教材が生徒の関心を惹いていない、学校生活の中で不公平を感じる状況があるなど)が存在している可能性があります。授業評価アンケートや面談を通して生徒へのヒアリングなどを行い、その要因を確認していくことが必要であると考えます。逆に「施設設備」においては保護者・生徒・教員の認識差において、教員の評価が低い一方で、保護者・生徒の評価が高くなっています。保護者・生徒からは設備が整っている、綺麗であると評価されていますが、とくに長年いる教員からは設備の老朽化が気になり低い評価になっているものと考えられます。

(8)その他

・昨今は自由な校風がトレンドであろうが、「明星紳士」を育てるためには、生活指導は必須。

社会に出てからの最低限のマナー、特に身だしなみや生活態度は確り指導を継続してもらいたい。

・SNS 等でのトラブル、マルチ商法など、若者をターゲットとした新種の犯罪に関わることもないようにも気を配らないといけない。

(4)施設設備関係

・非常に綺麗で清潔にされている。

・新しい自習室は良い環境、特に始業式の時間を活用するのは、生活面でも朝型の生活習慣となり大変よい。学校での自習は安心感があり是非活用を広げて欲しい。

(5)学校行事・クラブ関係・保護者会など

・共働き家庭が増えていることから、可能な限り土日、また保護者会はオンラインで参加する体制も検討してみてもどうか。

・文武両道を掲げているので、部活関連の施設の充実も図ってもらいたい。グラウンドのナイター設備なども検討してみてもどうか。

(6)連絡体制・ホームページ

・連絡体制は「Classi」により上手くワークされており問題ない。

・HP は評価が低かったが、2024 年 6 月に全面リニューアルされたので改善されるだろう。

(7)保護者・生徒・教員 3 者間の比較

・3 者間の評価の乖離を埋めるには、相互の対話が必要なので、機会毎に 3 者間の意思疎通を図ってもらいたい。

(設問 10)の「支援体制」で、「わからない」と回答した保護者は 38.4%と昨年度とほぼ同じ値でした。「カウンセリングだより」を出したり生徒・保護者への周知を図ったりしておりますが、なかなか認知がしてもらえていません。継続して保護者会での広報活動や classi などを用いた情報の伝達に努めていきたいと思ひます。また、満足度ポイントの平均は、保護者・生徒において少し減少しました。支援教育に対する期待もその分高まっているものと思われまひます。来年度から合理的配慮が私学の学校を含め民間企業で義務化されまひます。本校も SR 生徒が一定数在籍してまひますので、さらに配慮できるところは配慮していけるように、そのニーズにできる限り応えられまひますようにしていきたくて思ひます。

(8)その他

・起立性調節障害など様々な事情で学校の授業を受けることが出来ない生徒が増えてまひますので、サポート体制を維持・拡充し、生徒全員で卒業まで迎えてもらいたひます。